



世のため 人のため

～本業を通じた社会課題の解決に向けて～

副社長の加納さんよりみなさんへ 「次の世代につながる持続可能なものづくり」

トヨタ紡織が「ものづくり企業」として「持続可能な社会の実現に貢献する企業であり、そして人財を育てていく」ことが、今回策定したマテリアリティそのものです。様々な社会課題の解決、すなわちSDGsへの取組みにどれだけ貢献しているかを今問われています。もちろんこれからも魅力ある商品やシステムを提供し、より人々の生活を豊かにそして安全・快適にするといったことがベースにあります。一方で生産活動においては地球温暖化や水資源の枯渇といった環境問題にこれまで以上に正面から向き合う必要があります。皆さんも昨今のコロナ禍で健康問題には一人ひとりが真剣に自分事として向き合っていますよね。こういった安全や健康と同じレベルで全員の意識や行動を変えていくことがとても大切です。さらにこういった取組みを効果的にスピード感を持って進めていくためにデジタル技術、IoTやAIなどの情報技術といったDX※をうまく活用し、より従業員が安全・安心に働け、また環境負荷を最小限に抑える革新的な生産工程と一緒に造りあげていきましょう！

※DX：
デジタルトランスフォーメーション

ものづくりの企業としてすべての取引先の皆様とともにDXや技術革新の取組みを強化し、トヨタ紡織のマテリアリティの実現と同時に次の100年につなげていきましょう！



基本理念を知ろう <その1>

豊田綱領の次は、基本理念について学びましょう！基本理念は、2004年に制定されました。考慮すべきステークホルダーを**社会、お客さま、株主、社員、取引先**の5つとし、社会での存在意義を第一、私企業として存在するためにお客様を第二に位置づけました。基本理念の各項目からは、私たちは何をすべきでしょうか。3回に分けて紹介します。

1. 社会 よき企業市民として社会との調和ある成長を目指す。

(1) 企業倫理の徹底をはかり、公正で透明な企業活動の推進。

➡ (例) ルールを守り、誠実に事業を行うことで、グローバル企業として社会から信頼されるようになる

(2) クリーンで安全な商品を提供することを使命とし、地球環境保護を重視した企業活動の推進。

➡ (例) 環境・安全への取組みは、「社会から必要である」と認められるためには必須である

商品開発から生産、廃棄までのライフサイクルを通して環境に配慮した取り組みを行う

(3) 地域社会の一員としての役割を自覚し、よい社会づくりに貢献。

➡ (例) 「社会の一市民」と自覚し、会社を取り巻く様々なステークホルダーと協力する

